

年収**300万円**台からの

進学マネー

早めの準備と
工夫で乗り切ろう!

捻出法



少子高齢化が進み、国の財政危機が騒がれていますが、足元では各家庭の財政も厳しさを増しています。世帯収入はここ数年、増えるどころか減少傾向。一方で、高校卒業後の進学率は年々上昇し、学費の負担が長く重く、家計にのしかかってくるからです。その進学費用はいくらくらいかかるのか、捻出できるのか、最新の情報とともに、準備の仕方をご紹介します!

構成・取材・文／インタープレス イラスト／ヒラマツオ

経済状況が厳しくなるなかで 卒業後の進学費用は大きな課題

子どもが高校に入学したばかりのころは、その先の進路についてはまだ具体的に考えていないご家庭も多いでしょう。しかし、高校卒業後の大学等への進学率は年々上昇しています。

2011年度は大学・短大への進学率が54.5%、専門学校への進学率が16%で、浪人生も含めれば確実に70%以上の生徒が進学コースを選択するという時代。学校によつては大学等への進学率が90%以上というケースも少なくありません。

「保護者の皆さんは、高校卒業後の進学費用まで考えておくことが必要となり、家計に占める教育費の割合は、子どもの成長とともに、どのご家庭でも大きな悩みとなっています」と、ファイナンシャル・プランナーの北見久美子さんは話します。

全国高等学校PTA連合会とリクルートが合同で行った最新の調査でも、高校2年生の保護者が進路検討で重要だと思ふ情報は「進学費用」がトップになりました。

親としては、子どもが進学を望むなら、できる限りその希望をかなえてあげたいと思う人が大半でしょう。しかし、費用の面で実際にどれだけ準備をしているかといえは、「十分とはいえない」

い「まだこれから」という家庭も多いのではないのでしょうか。とくに最近では、長引く不況で収入が減り、大学資金として貯めた貯蓄を取り崩してしまったり、高校入学時に使ってしまったという家庭も少なくありません。

だからこそ進学費用については早めに調べ、準備を始めておくことが大切です。そうでないと、進学先が決まってから親子で慌てるだけでなく、進学後の家計や夫婦の老後の生活にまで大きな影響を及ぼすことになるからです。

まずは進学費用について、知っておきたい3つのポイントを押さえ、以降のページを参考に進学資金の捻出法を親子で考えてみてください。

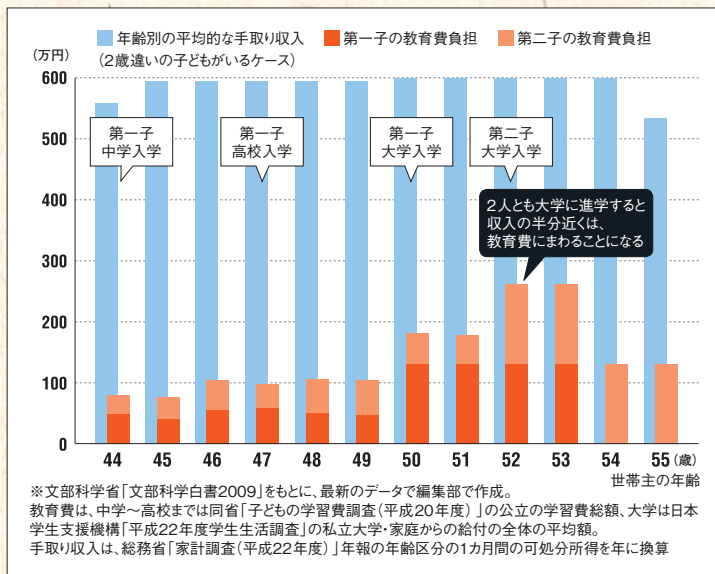
お話をうかがった専門家



北見久美子さん

ファイナンシャル・プランナーとして、これまでに数千件の家計相談を担当。ご自身も3人のお子さんを持ち、2人は大学を卒業、末子が今年大学に入学し、教育費の大変さを実感している。

■家計の所得と教育費



進学費用 3つのPOINT

Point 1

**大学などにかかる教育費が
家計に及ぼす影響は、年々増加**

子どもが高校生や大学生になると、親の年齢は40代後半から50代という家庭が多く、平均年収もやや高めます。そのため、わが家は平均並みと考える家庭では「特別な準備をしなくても、学費くらいは何とかなるだろう」と思いがち。しかし、そうはいかないことも多いのが現実です。

左の図は、平均的な収入で子どもが2人いる家庭の手取り収入に占める教育費の推移を表したものの。大学生が

Point 2

**まずは親子で進路を話し合い
「早めに準備」を始めることが大切**

親が希望する進路と子どもの希望は、必ずしも一致するとは限りません。子どもの希望も学年が進むうちに変わることもあるでしょう。それでも、事あるごとに卒業後の進路や希望の進学先を聞き出して、親子で話し合う機会をつくりましょう。

「高校生になれば、家庭の事情も理解できます。わが家の場合、卒業後の進学費用はどこまで出せるのか、家計の限界や可能なラインを伝えておくこと

Point 3

**進学費用を補う方法も充実。
進路に合わせて「賢く活用」しよう**

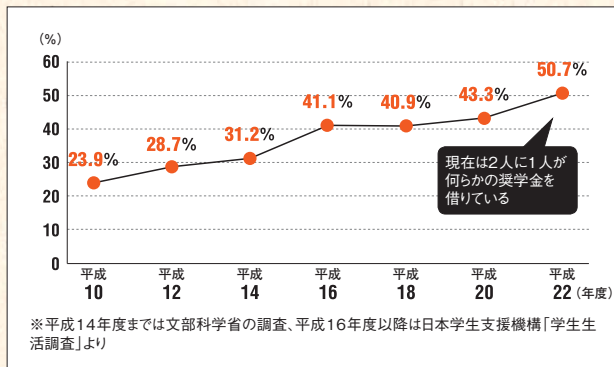
進学先にかかる費用を調べ、いろいろと調べて準備をしても、必要な資金が不足しそうなら、学費を補うために奨学金や教育ローンを活用するの、一つの方法です。ただし、はじめから奨学金などに安易に頼るのは禁物です。

ここ数年の厳しい経済環境から、奨学金の利用者は増加中ですが、大学生などの就職状況も厳しく、卒業後に返済が滞る人たも増えています。子ども

負担がまわってきます。貸与型の奨学金であれば、返済時の負担も考えて、不足分だけ利用するという心掛けが大切です。

最近では、返済の必要がない大学独自の奨学金も充実しています。こうした給付型の奨学金ならぜひ活用したいところですが、そのためには入学試験や在学中の成績を上げることが必要。子どもが勉強に励むための動機付けとして、調べてみてはいかがでしょうか。

■大学生の奨学金受給者の推移



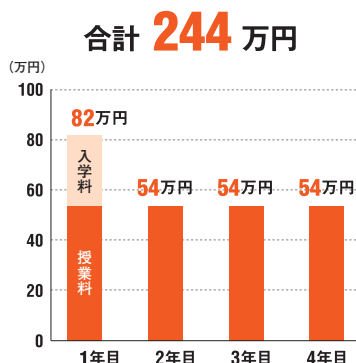
も大切です」(北見さん)。

そのうえで、進学先によつてどれくらい費用がかかるのかを親子で調べ、具体的な準備の仕方を考えて、早めに取りかかると、子どもだけ、親だけで悩み、あきらめる必要はありません。進学費用を準備するという共通目標があれば、高校生のうちは何かを我慢するといった工夫も、自然に生まれるかもしれません。

進学コース別に異なる 「かかる費用」を知っておこう

※左の納付金のグラフは私立大学は平成22年度入学者の初年度学生納付金平均額の調査(文部科学省)、専門学校は平成23年度学生・生徒納付金調査結果(東京都専修学校各種学校協会調査統計部)、国立大学は平成23年度の標準額から作成(すべて昼間部)

国公立コース



ほとんどの大学が同じ金額。
学部による違いはない

国立大学昼間部では、入学金28万2000円、授業料年53万5800円で、ここ数年同じ金額です。現在では大学ごとに学費を決められますが、ほとんどの大学が横並び。その他の費用が必要な大学もあるので、要項などで事前に確認を。公立大学の納付金もほぼ同じ金額ですが、地元在住者は入学金が安くなる大学もあります。

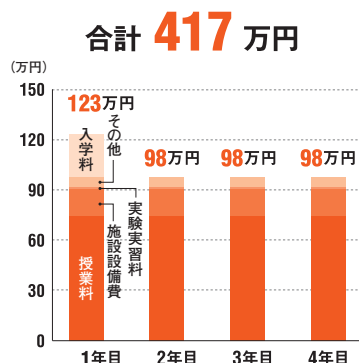
こんな費用がかかることも

- **資格取得費**／公認会計士や司法試験などの民間スクールに通う学生も多く、費用は数十万円。
- **語学研修費**／大学の制度を利用して留学することも。留学費用のほか、事前の語学スクールなども含め短期留学でも約80万円という人も。
- **ゼミ旅行(合宿)**／国内なら数万円程度。海外旅行になると、北欧で約40万円かかった例も。
- **私立併願費用**／滑り止めの私立大学を受験すると、受験料や交通費のほか、宿泊費用がかかることも。合格後は、先に私大の納付金を振り込む必要もあります。所定の期日までに申請すれば、授業料などは返還されますが、入学金は戻りません。
- **通学費**／自宅通学の場合、長距離になると電車やバスの定期代が高く、負担になります。

4年間の総額の目安

**300万円～
400万円**

私立文系コース



私大の中では**学費が低め**。
それでも初年度は123万円

私立文系の納付金は、入学金25万2307円、授業料年74万2189円です。このほかに施設設備費16万822円、実験実習料1万1656円、その他6万2393円かかります。学部による平均額はそれほど差がありませんが、大学ごとに見れば納付金額はさまざま。教育充実費などの、徴収されるお金の名称も大学によって異なります。

こんな費用がかかることも

- **資格取得費**／公認会計士や司法試験などの民間スクールに通う学生も多く、費用は数十万円。
- **語学研修費**／大学の制度を利用して留学することも。留学費用のほか、事前の語学スクールなども含め短期留学でも約80万円という人も。
- **ゼミ旅行(合宿)**／国内なら数万円程度。海外旅行になると、北欧で約40万円かかった例も。

4年間の総額の目安

**500万円～
600万円**

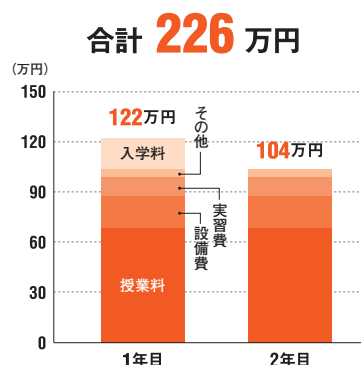


国公立が私立か、私立は進む分野でも違いは大きい

まず確認しておきたいのは、子どもの進学先によって、かかる費用の目安です。中でも重要なのが、入学後に支払う初年度納付金と、2年目以降に毎年支払う学校納付金です。

上のグラフは、進学コース別の学校納付金の平均額とその合計なので、希望の進路が決まったら、これを目安に必要な資金を準備しましょう。ただし、同じような学部・学科でも、学校によって年に数万～数十万円の違いがあります。志望校があれば、各学校のパンフレットや毎年の入試要項などで調べてみましょう。全体では、国立大学の納付金は過去4～5年変わっていません。私立大学は数年前よりやや増加傾向ですが、歯科系では納付金を値下げした大学もあり、平均でも前年比5%減となっています。

専門学校コース



平均額は**私大文系並み**だが
医療系は170万円と高め

専門学校昼間部の平均額は、入学料18万1000円、授業料年68万5000円、設備費18万7000円、実習費11万5000円、その他5万2000円です。ただ、専門学校には工業、芸術、医療、ビジネスなどさまざまな学科があり、納付金にも違いが。とくに看護を除いた医療系は高め。修学期間が3年以上の学科もあります。

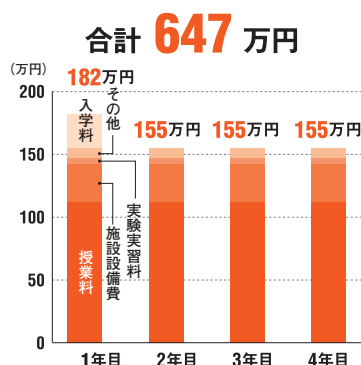
こんな費用がかかることも

- 教科書代／学費と別に教科書代、教材費などがかかることが多い。事前にHPなどで確認を。
- 資格取得費／資格取得のための検定料や、任意の特別講習費は、別途徴収されることも。
- 実習費用／実習が必要な学科は、校外研修があり、泊りがけで1回数万円になることも。入学時には実習着やユニフォームを購入することも多い。

2年間の総額の目安

**300万円～
400万円**

私立芸術系コース



全体的に**費用は高め**で
特に**施設や実習費の負担大**

美術や音楽などの芸術系では、入学料27万1663円、授業料112万1138円。そのほかに施設設備費29万9837円、実験実習料4万7891円、その他7万8653円。実技授業が多いため、授業料以外にかかる費用が高めです。実際の納付金は学校によってさまざまで、下のようなお金もかかるので、事前に確認しておくことが肝心です。

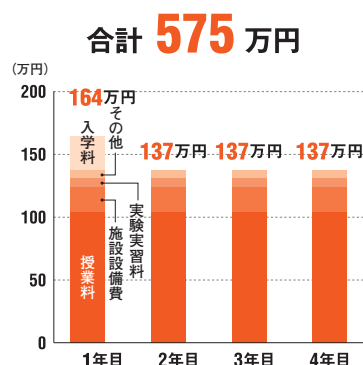
こんな費用がかかることも

- 個人レッスン代／音楽系学部では授業だけでは不十分なら、個別に練習。1回1万円かかる人も。
- コンサート・コンクール費用／参加費や衣装代、伴奏者への謝礼など。
- 美術の材料費など／授業用の画材等は自己負担のことも多い。デザイン系では指定のパソコンが必要で、約20万円かったケースも。

4年間の総額の目安

**700万円～
800万円**

私立理系コース



文系より**年40万円ほど**高く
実験実習料が多くかかる

医歯系を除く私立理系の平均額は、入学料26万8709円、授業料年104万1643円です。そのほかに施設設備費19万1480円、実験実習料7万2995円、その他6万7589円がかかっています。ただし、学部ごとに見ると、理工学部の初年度は合計約155万円、農・獣医学部は約153万円とやや低めですが、薬学部は下のように高め。

こんな費用がかかることも

- 教科書・参考書代／学科で異なりますが、教科書代が年15万円の人も。負担を感じる人が多い。
- パソコン購入費／ソフトが入った専用のパソコンを買うことも多く、費用は20万～30万円程度。
- 大学院の費用／理系学部の学生は大学院に進む人も多く、その場合は大学院の入学料が20万円超、授業料などが年約100万円かかります。

4年間の総額の目安

**600万円～
700万円**

私立の医歯薬系大学の納付金は6年間で4000万円以上に

医歯系の初年度納付金の平均は、右のように800万～900万円程度。2年目以降は、医学部は655万円、歯学部は844万円となり、6年間では合計4000万～5000万円に。薬学部は年間200万円前後ですが、学科により6年間なら1000万円以上。納付金は学校によって大きく異なるので、よく確認を。

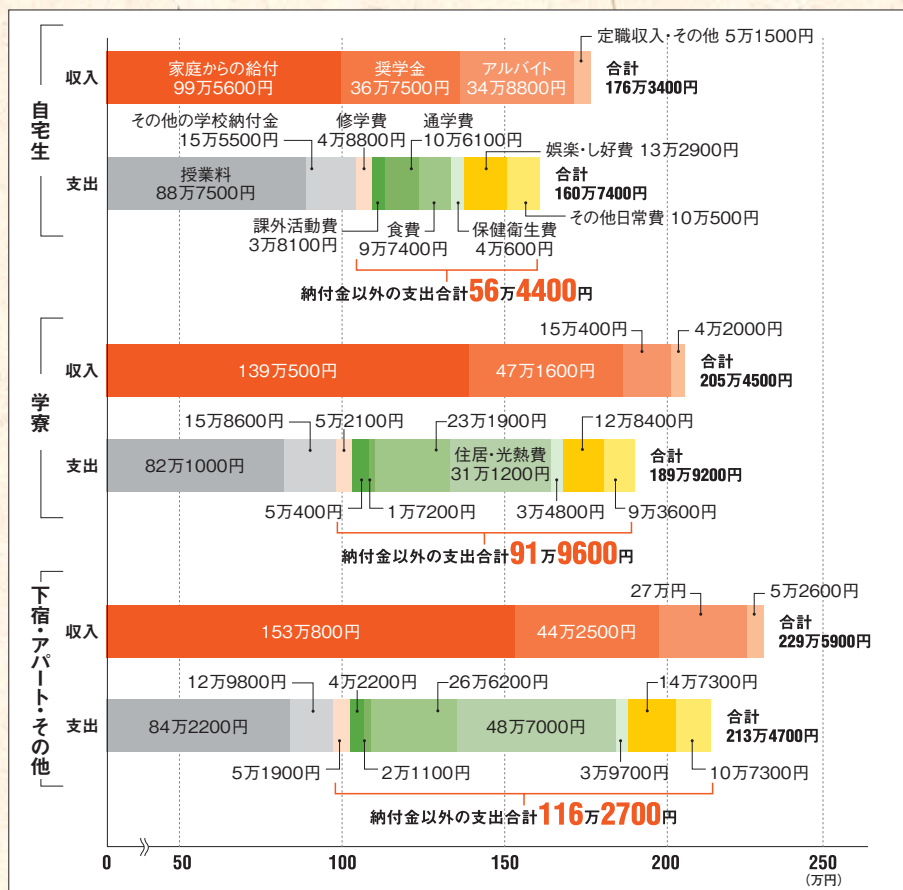
■私立医歯薬系大学の納付金の平均額

	医学部	歯学部	薬学部
入学料	132万円	61万円	35万円
授業料	264万円	347万円	146万円
施設設備費	108万円	60万円	30万円
実験実習料	29万円	1万円	4万円
その他	254万円	436万円	8万円
初年度納付金合計	787万円	905万円	223万円
6年間合計	4062万円	5125万円	1163万円

※文部科学省「私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額」(平成22年度)より

進学すると学校納付金以外にも、教材費や通学費などの修学に関連してかかる費用があります。それらを含めたものが最下段に示した「総額の目安」です。実際、私立理系に進学した家庭では4年間で700万円くらいかかるという声が多く、私立芸術系では800万円以上という人も。専門学校は学科や専攻による納付金の違いや、修学期間が2年間で3年間かなどと異なる点に注意しましょう。

■大学生の生活費(年間)



※日本学生支援機構「平成22年度学生生活調査」より

■私大生の初年度納付金以外にかかる費用(平均)

		自宅外通学	自宅通学
入学まで	受験費用	23万9400円	20万5900円
	家賃	6万1100円	—
	敷金・礼金	21万5800円	—
	生活用品費	30万2400円	—
入学以降	仕送り額(4月～翌年3月)	108万円(月9万円×12カ月)	—
	合計	189万8700円	20万5900円

※東京私大教連「私立大学新入生の家計負担調査」(2010年度)より。仕送り額は出費が落ち着く6月以降の月平均9万1600円をもとにした目安。

■受験費用の例

	検定料(受験料)
センター試験(申し込み時)	3教科以上1万8000円(2教科以下1万2000円)
国立大学	前期日程/後期日程 各1万7000円程度
私立大学	センター利用入試 1校1万～2万5000円程度 一般入試 1回平均3万5000円程度

入学前に必要なお金もあります。私立大学の一般入試では、受験システムが多様化で複数の受験チャンスがあるため、出願書類の入手や郵送代、受験料と、受験費用も高くなります。国立志望でも、滑り止めに私立を併願する人が多く、受験当日の交通費や宿泊代など20万～30万円はかかる人が多いようです。入学先が自宅外通学になったら、住まい探しや入居準備にもお金がかかります。親の経済状況を反映し、最近では学生寮の人気の復活。寮生活なら最初にかかる費用は入寮費や身の回り費用ですみますが、1人暮らしの場合は入居までに平均50万円以上の出費となります。月々の仕送り額も減少ぎみで、首都圏の私大生で平均9万円、全国平均では7～8万円。入学後の生活費は住まいの違いで上

学生生活にかかるお金は
親子で費用を分担しよう



■日本学生支援機構の奨学金〔予約採用・大学の場合〕

	第一種奨学金(無利息)	第二種奨学金(利息付)
学力基準	高校の成績の評定平均値が3.5以上	高校の成績が平均水準以上や、学修の意欲があり学業を確実に修了できる見込みがあると認められるなど
家計基準 (世帯収入の 上限の目安)	【4人家族】 給与所得者 収入890万円 それ以外 所得404万円 【5人家族】 給与所得者 収入923万円 それ以外 所得437万円	【4人家族】 給与所得者 収入1142万円 それ以外 所得656万円 【5人家族】 給与所得者 収入1263万円 それ以外 所得777万円
貸与月額	国公立／自宅通学 4万5000円 自宅外通学 5万1000円 私立／自宅通学 5万4000円 自宅外通学 6万4000円 上記の金額以外に、国公立・私立や通学形態を問わず、3万円も選択できる	大学や通学の形態を問わず 3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択。私大の医学・歯学・薬学・獣医学課程は増額が可能

4年間 借りた場合の 返還例	貸与額	私大・自宅外通学で 月 6万4000 円なら ⇒貸与総額 307万2000 円	月 5 万円なら ⇒貸与総額 240 万円	月 8 万円なら ⇒貸与総額 384 万円
	返還額	月1万4222円 ×18年 ⇒返還総額 307万2000 円	月1万6769円 ×15年 ⇒返還総額 301万8568 円	月2万1531円 ×20年 ⇒返還総額 516万7586 円

*第二種の返還例は利率が上限の年3%の場合。実際の利率は貸与終了時に決まる。
*在学採用(緊急・応急利用を含む)の場合、家計基準・貸与月額・返還期間が異なる。
*短大・専門学校の第二種の貸与期間・総額は修業年数に準じ、それに応じた返還月額になる。

■教育ローン

	おもな借入条件	融資額	金利／返済期間	問い合わせ
ろうきんの 教育ローン (中央ろうきん の場合)	会社が団体会員になっている、または自宅や勤め先が関東3都県にある人。申込時20歳以上、最終返済時満71歳未満など	団体会員 1000万円以内 上記以外は 500万円以内	返済が10年以内の場合、団体会員は固定1.7%、それ以外は2.2%。返済期間は最長15年	中央労働金庫 お客様相談デスク 0120-86-6956
銀行の 教育ローン	銀行によって異なるが、申し込み時20歳以上で、前年度の税込み年収が200万～300万円以上、勤続年数1年以上など	最高300万～ 500万円	変動金利が主流で3～4%台、期間は10年以内が一般的。ネットで申し込める銀行もある	各銀行
大学提携の 信販会社の 教育ローン	学校と金融機関、学生の保護者の3者が契約。入学・在学中の学生の保護者は安定した収入のある人	最高 500万円程度が 一般的	信販会社や学校によって異なるが、おもに固定金利で、3%後半～4%台	各信販会社 (大学名を申し出る 必要あり)

※条件、金利は2012年2月現在

奨学金が間に合わない場合は、教育ローンを借りる手もありますが、こちらは国の教育ローンから検討を。

奨学金が間に合わない場合は、教育ローンを借りる手もありますが、こちらは国の教育ローンから検討を。

奨学金が間に合わない場合は、教育ローンを借りる手もありますが、こちらは国の教育ローンから検討を。

■大学独自の奨学金のおもな種類

おもな種類と目的	特徴・内容
給付型	学業成績に応じた人材育成 新入生は入学試験、在学中は各年度で優秀な成績を修めた人に対し、授業料相当額または一定の金額が支給される。支給期間は1年間が多く、4年間の場合は各年に資格審査がある
	経済的サポート 経済的な理由によって修学が困難な学生に支給される。父母の合計年収が一定の基準以内で、学業成績が一定の評価以上などの条件がある
	緊急時、家計急変時への対応 父母の死亡や病気、会社倒産、自然災害などにより家計が急変し、修学が困難になった学生に対し、授業料相当額または一定の金額が支給される
貸与型	経済的サポート 父母の合計年収が一定の基準以内で、経済的理由で修学が困難な学生に、授業料の一部が大学から貸与される。1年ごとの申請で、無利子の場合もある。貸与額は卒業後に返還が必要
	銀行提携の教育ローン紹介 大学が提携する銀行の「教育ローン」で、在学中は毎月利子のみの支払いで済み、借入額は卒業後に返済する。在学中の利子相当額は、本人の申請により奨学金として年度末に給付される場合もある

■入学費用の借り入れ状況

	借り入れあり	借入額の平均
自宅外通学	24.3%	178万5000円
自宅通学	17.0%	134万6000円
全体	20.2%	157万9000円

入学費用の調達のために、5人に1人が教育ローンなどを利用している

※東京私大教連「私立大学新入生の家計負担調査」(2010年度)より

■国の教育ローン(教育一般貸付)

おもな借入条件	子どもの人数に応じた所得制限がある。例えば、子ども2人の場合、給与所得者は年収890万円以内、事業所得者は所得680万円以内の人。また、世帯年収が給与所得者は年収990万円以内、事業所得者は所得770万円以内で、勤続年数3年未満などの特例要件に該当する人
融資額	学生、生徒1人につき300万円以内
使い道	学校納付金、受験費用、敷金・家賃などの住居費用、教科書代や通学費用など
金利(年)	固定2.55%(平成24年2月23日現在)
返済期間	15年以内。在学中は元金据え置き可
問い合わせ	日本政策金融公庫 教育ローンコールセンター TEL0570-008656

図のようになっていますが、生活費の何割かは、奨学金やアルバイトで賄っている学生がほとんどです。

奨学金の種類や条件もあらかじめ知っておけば安心

経済的に厳しい場合、頼りになるのは奨学金。代表的な日本学生支援機構の奨学金は、高校3年の春などに学校を通して申し込む「予約採用」と、大学などに入学後、その学校で申し込む「在学採用」があります。いずれも無利息の第一種と利息付きの第二種では学力と家計基準の条件が異なります(上の表参照)。第一種は学校ごとに採用枠が決まっているため、二種がダメなら二種というケースが一般的です。

大学や専門学校ごとに独自に実施する奨学金も複数あり、最近では貸与型より給付型が増えています。例えば、明治大学の場合、入学試験の合格者で成績優秀な70名に、授業料相当額を給付する「特別給費奨学金」があります。入学後にも、学業成績などに応じて一定額を給付する各種の奨学金があり、家計の急変や経済的サポートを目的とした奨学金など全部で18種類を用意。志望校などの奨学金も調べてみる価値あります。

奨学金が間に合わない場合は、教育ローンを借りる手もありますが、こちらは国の教育ローンから検討を。

■進学マネープランはこうして考えよう(子ども1人にかかる費用)



子どもが希望する進学先に合わせて書き出してみましょう

進学先への学校納付金や教科書代、定期代などを加えた各年の最低必要と思える資金

今までに貯めた教育資金目的の預貯金やこども保険の受取額などを、各年に振り分ける

大学や専門学校に進学したとき、毎月の家計やボーナスから年間に出せる金額を考える

左の2つで不足する金額で、奨学金や教育ローンなどで賄う分(p.59参照)

	必要資金 (p.56~57参照)	用意できる 資金から	家計から	その他 奨学金など
受験費用	万円	万円	万円	万円
()	万円	万円	万円	万円
1年	万円	万円	万円	万円
2年	万円	万円	万円	万円
3年	万円	万円	万円	万円
4年	万円	万円	万円	万円
年	万円	万円	万円	万円
年	万円	万円	万円	万円

マネープランを立てるときのポイント

①高校3年の受験までにどれだけ貯蓄を増やせるかで、用意できる資金も違ってくる⇒左ページ参照

②高校時代にかかる毎年の教育費を、大学や専門学校の費用にまわせることもある

③奨学金を利用する際も、不足額を確認してその分だけ借りれば、卒業後の子どもの負担は軽くなる

今の希望で学費をシミュレーション 問題点には改善策を検討しよう

必要な資金とその捻出法を具体的に試算

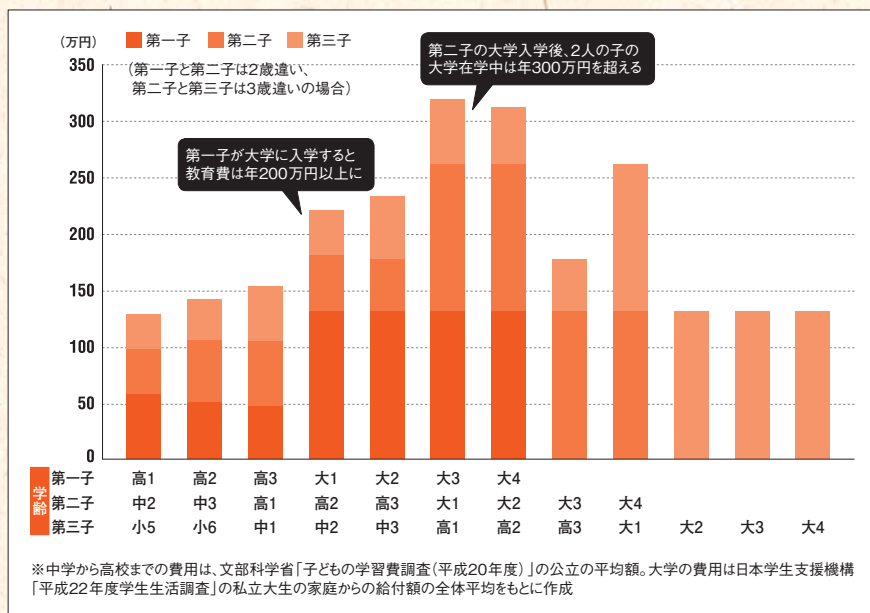


各年に必要な金額で考えれば
資金の捻出はしやすくなる

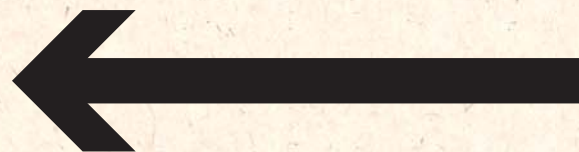
進学先別にチェックした納付金の合計額や総額の目安を見ると、「とてもこんなに用意できない!」と頭を抱える保護者の方もいるかもしれません。ですが、これらの金額は一度に支払うものではありません。毎年必要な資金に合わせて、どこから出すかを1年ずつ考えていけば、意外に資金繰りはしやすくなります。

上の書き込み表を利用して、わが家の進学マネープランを立ててみましょう。まずは、子どもの希望する進学先に合わせて、各年に必要となりそうな資金を書き込みます。希望がまだはっきり決まっていなくても、56~57ページに紹介した大まかな進学コースで考えてみましょう。次に、その資金をどこから捻出するのか、貯蓄などで用意した資金と、毎年の家計から出せる分を考

■子どもが3人いる家庭の年間教育費の変化



子どもが**2人以上**いる場合
毎年の教育費が
この先どのようになるかを
チェックしておくことも必要！



プランに合わせて 進学資金を増やす ポイントはコレ！

Point1

家計を見直して 貯蓄にまわす

毎月の生活費やボーナスの使い道を見直せば、貯蓄を増やせることも多い。例えば、家族全員の小遣いや外食費などのほか、生命保険も必要な保障だけに絞って減らせることも。車も思い切って手放せば出費は大幅にカットできる。

Point2

妻が働くなどして 収入を増やす

妻が専業主婦なら働き始める、パート勤めなら勤務時間を増やすなどで世帯収入を増やし、増えた分を進学資金にまわす。共働きは出費も多くなりがちなので、妻の収入は別管理で貯めるといい。

Point3

奨学金を利用する

日本学生支援機構の奨学金をはじめ、大学や民間団体などの奨学金を利用することを検討。それぞれの条件や受け取れる金額などを調べ、貸与型は将来の返済まで考えて借りる金額を検討する。

Point4

その他の収入や援助

養老保険の満期金など、一時的に入る収入がないかもチェック。高額な生命保険を減額したり解約すると、解約返戻金ももらえることもある。入学祝などで親や親類からもらえるお金も進学資金にまわせる。どうしてもときは、親などに借りる手も。

Point5

教育ローンを検討する

入学時に支払う資金の工面が難しい場合、教育ローンを借りることも検討。まずは低金利の「国の教育ローン」から条件などを調べ、それが無理なら銀行など民間金融機関の教育ローンを探してみる。

今の時点でかなり厳しいプランになりそうなら、家計を見直すなどの方法で、進学資金にまわせるお金を増やせるように工夫してみることも大切です。資金の捻出法には「支出を削って貯蓄を増やす」「収入を増やす」「どこから調達する」という3種類のやり方があります。上のポイントを参考に、できることから始めてください。こうした工夫で、進学後の家計が改善する例を、次のページに紹介します。

受験までの期間を利用して 今から資金を増やす手も

「上の子どもに手厚い資金を用意して、下の子どもが進学する時に資金が大幅に不足するようでは困ります。子どもにかけられる教育費はできるだけ平等に用意してあげたいもの。その点を考慮して、今の貯蓄から出せる分と、毎年の家計から出せる分を検討してください」(北見さん)。

えて1年ずつ記入していきます。この二つで各年の必要資金が賄えるなら、ひと安心といえます。足りない分があれば、それがその年に奨学金などでカバーする費用になります。

注意したいのは、同じように教育費がかかる兄弟・姉妹がいる場合です。子どもの年齢差によつては、年間1000万円以上の教育費が重なる年も出てきます(上のグラフ参照)。

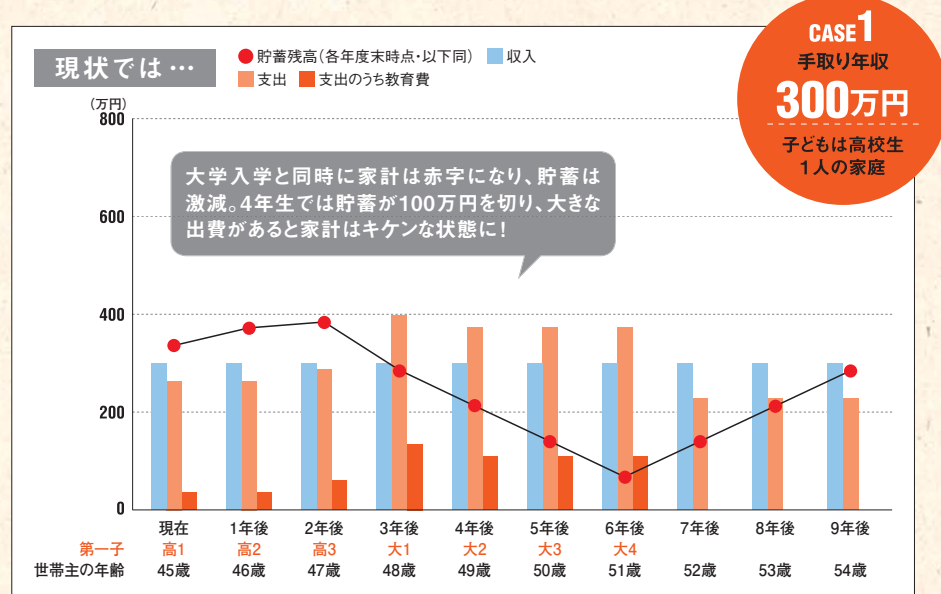
「上の子どもに手厚い資金を用意して、下の子どもが進学する時に資金が大幅に不足するようでは困ります。子どもにかけられる教育費はできるだけ平等に用意してあげたいもの。その点を考慮して、今の貯蓄から出せる分と、毎年の家計から出せる分を検討してください」(北見さん)。

CASE1～CASE3の共通条件

各試算には、大学入学時の受験費用として、高校3年時に24万円上乗せ。大学時代の教育費は、国立大学は文部科学省の平成23年度の標準額。私立大学は同省「私立大学入学者に係る初年度学生納

付金平均額」(平成22年度)の入学料、授業料、施設設備費の合計額。自宅通学は、その他納付金や教材費、通学費などで一律20万円を上乗せ。子ども1人につき月3万円を生活費に上乗せしている。

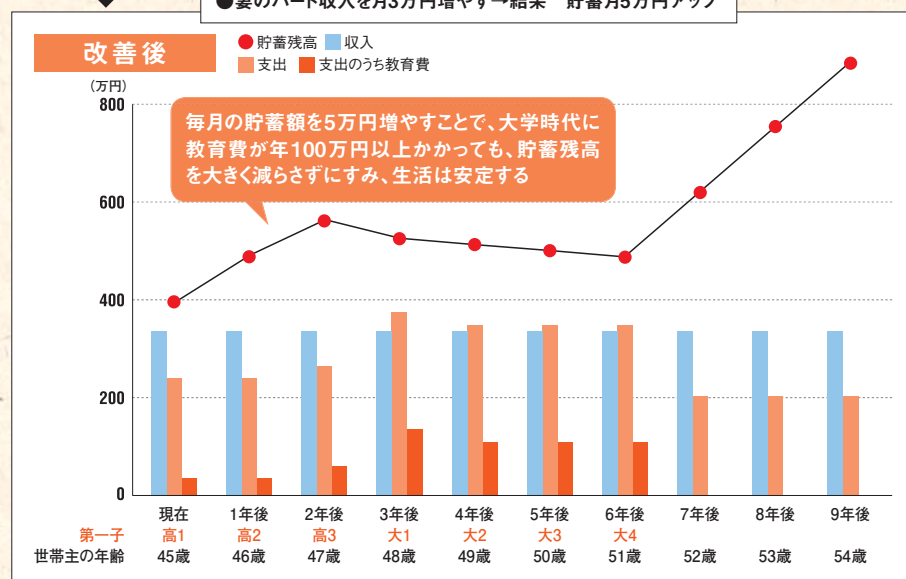
シミュレーション協力／株式会社プラチナ・コンシェルジュ 田辺南香



家族構成と家計状況：夫45歳・自営業、妻44歳・パート勤務／子どもは公立高校1年で、進学先は私大文系希望／世帯手取り収入300万円(夫・月22万円、妻・3万円)／ボーナスなし／親の持ち家に同居／貯蓄月3万円、年間36万円／貯蓄残高300万円

改善ポイント

- 生活費を月2万円節約
- 妻のパート収入を月3万円増やす→結果 貯蓄月5万円アップ



北見先生からアドバイス 今からどれだけ資金のベースを増やせるかがカギ

勤務先の業績悪化や事業の不振で、収入がダウンする家庭も増えています。上のケースはお子さん1人のため、現状では進学先が国公立か私立文系で自宅通学なら、何とか学費までは出すことが可能。しかし、在学中に家庭の貯蓄が100万円を切るようでは、家族の病気やケガ、車の買い替えなどで大きな出費があれば大変なことになります。不測の事態にも対応できません。高校時代に少しでも貯蓄を増やし、進

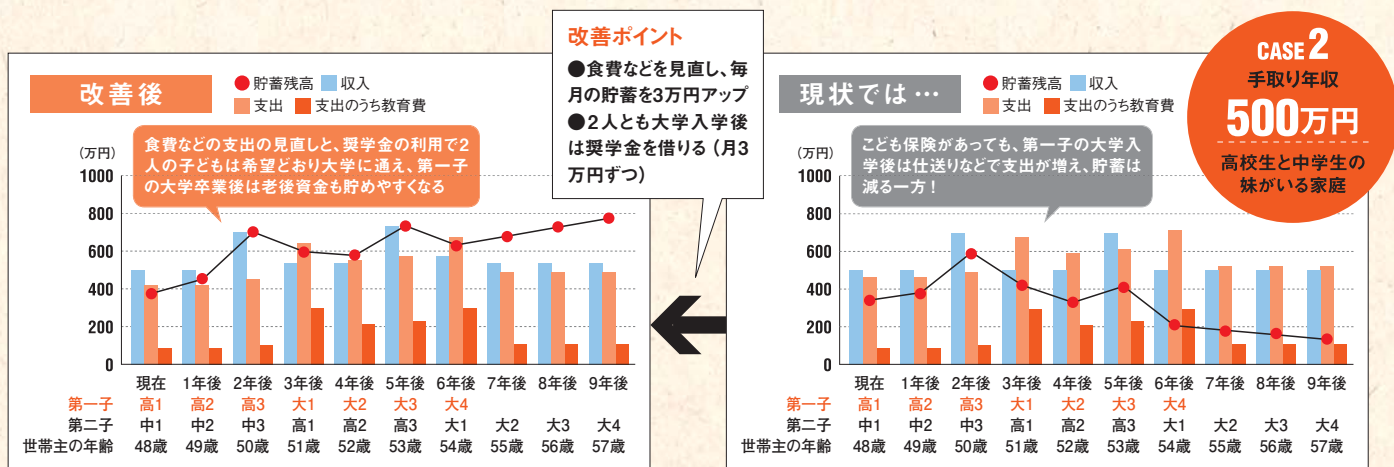
学費用のベースを増やしておくことが大切です。

そのためにすぐできることは、生活費を見直し、妻のパート収入を増やすこと。この2つの工夫で、今から月に5万円ずつ貯蓄を増やすだけで、子どもの大学在学中も家計はかなり改善し、生活も安定します。進学先によって仕送りが必要な場合や、お子さんが2人以上いる家庭は、大学に入学後、学費の一部を奨学金でカバーしましょう。

3ケースの改善プランを参考に わが家の進学マネープランを考えよう

世帯の年収別に進学マネーの捻出法を伝授



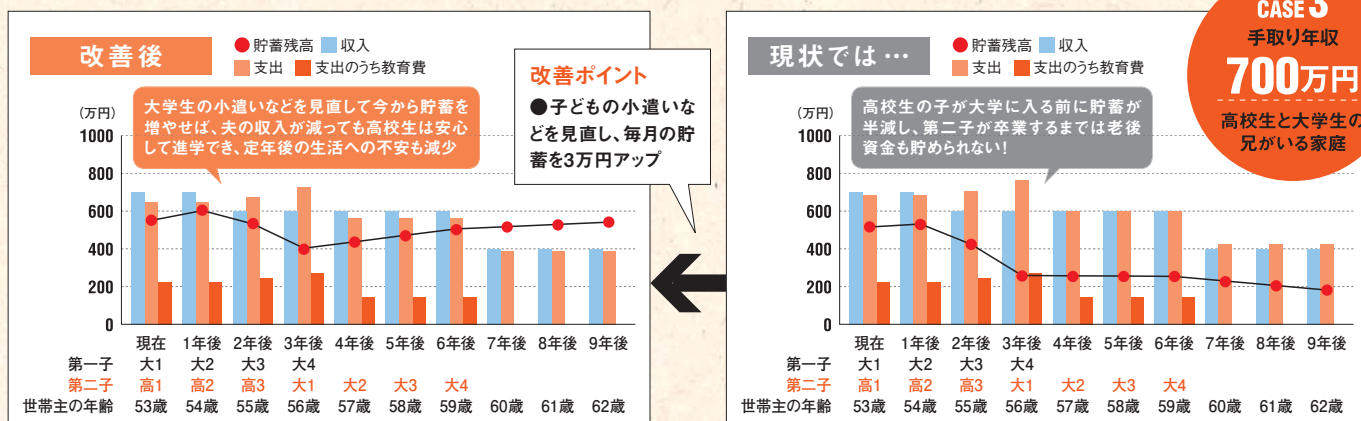


家族構成と家計状況：夫48歳・会社員、妻48歳・パート勤務／第一子は公立高校1年で、進学先は地方国立大希望／第二子は公立中学1年で、進学先は公立高校、私立大文系希望／世帯手取り収入500万円(夫・月30万円、ボーナス年間92万円、妻・月4万円)／貯蓄月2万円、ボーナスから16万円、年間40万円／貯蓄残高300万円

北見先生からアドバイス こども保険があっても、安心してはいけません

上図はお子さん2人の大学費用をこども保険(学資保険)で準備されている家庭です。保険からの受取額は、18歳の満期時に200万円ずつありますが、第一子が国立大学で仕送りが必要になると、その大学在学中に貯蓄は減少し、家計は赤字状態に。第二子の進学も厳しくなるでしょう。こども保険があっても、このように十分でないことが多いです。こども保険がある家庭は、その受取額を

学費に充てたとき、何年分が賄えるかを冷静にチェックしてください。200万円なら国立で3年分、私立文系なら1年半くらいです。それ以降の資金を考えて早めに家計を見直し、足りない学費は貯蓄で備えましょう。上は現在月2万円の貯蓄なのに、3万円アップして月5万円に改善。子ども2人の在学中はそれぞれ月3万円の奨学金を利用することで、老後資金も貯めやすくなります。



家族構成と家計状況：夫53歳・会社員、妻50歳・専業主婦／第一子は私立大文系1年／第二子は私立高校1年で、進学先は私立大理工系希望／世帯手取り収入700万円(夫のみ月40万円、ボーナス年間220万円)／貯蓄は前年まで月1万円、ボーナスから40万円、年間52万円／貯蓄残高500万円(第一子の入学時の納付金を支払ったあとの金額)

北見先生からアドバイス 親の年齢も考慮して早めに負担を減らしましょう

このケースは第一子がすでに大学に入学し、下の子どもの進学資金が心配という家庭。世帯年収は高めですが、子ども2人は私立のため、支出も多くなりがちで、収入のわりに貯蓄は少なめです。ご主人の定年も見えてきて、老後資金も気になる時期。今後はどこまで学費に充てていいものかと悩む年代でもあります。実際に会社員の場合は50代半ばから給与が減り、定年後に働き続けても

年収は半分くらいにダウンするのが一般的。現状のままでは学費は何とか支払えても、夫婦の老後はかなり不安な生活になりそうです。まずは大学生になった第一子の小遣いをやめ、アルバイトなどでやりくりさせて、今よりも月3万円ほど多く貯蓄にまわします。第二子の大学入学後も同様に家計の支出を抑えることが大事。子どもに自活を促すことで、親の負担は減少します。

リクルートの使えるサービス

進学ネット保護者版 **検索**

<http://shingakunet.com/parent/>

進学ネット保護者版

大学や専門学校の情報検索、入試情報などの収集に便利なサイト「進学ネット」の保護者版では、2012年3月中旬から学費を織り込んだ家計のシミュレーションができるようになりました。子どもの進学プランに合わせて進学先の種類や希望の分野、地域などを選ぶと、学費の相場が家計に占める教育費を算出し、卒業年までグラフで見ることが可能。子どもの情報は3人まで入られ、家計の変化も目瞭然。7月中旬以降は学校別の学費でも試せます。

3GS活用POINT

1 家計への学費の影響が具体的な数字やグラフによってわかりやすい

2 ファイナンシャル・プランナーによる解説やアドバイスも役立つ

3 子ども3人まで入力でき、学費が重なる年や家計の変化も確認できる

学費のシミュレーションができる!

進学ネット保護者版

生活費の約半分はアルバイトでまかない、 食事は寮の友達と楽しく自炊！

国際基督教大学 教養学部1年生 U・Eさん

好 きな英語を勉強でき、海外の大学のようなキャンパスに憧れて、今の大学を選びました。一人暮らしより生活費が安いと思い寮に入りましたが、寮生活は大学生活の中で一番有意義な経験になっています。留学生とも同室なので、話す言葉は主に英語。私が落ち込んでいるときは、気を使ってくれる家族のような関係です。料理をして同室の友人と一緒に食事をする事が多いですし、寮内のパーティーで卒業生とも交流ができ、とても楽しい毎日ですよ。外食は控え、実家から送ってもらった野菜も活用して、なるべく自炊しているので、料理の腕もだいぶ上がりました。できるだけ外の友人とも会うようにしていますが、そのための交際費や交通費は必要経費と思っています。それでも、大学周辺への外出には自転車を使ったり、実家に帰るときは夜行バスを使ったりなど、無駄なお金を使わない工夫をして、乗り切っています。

アルバイトについて

昨年秋から週2～3日衣料品店でアルバイトをしています。きっかけは、生活費の足りない分を稼ぎたいのと、海外のスタディーツアーに参加する費用を貯めたいと思ったから。大学の近くなので時間のやりくりは問題ありませんが、社員と同じレベルの仕事が要求されるため厳しい。注意されてばかりですが、とても社会勉強になっています。長期休暇のときは、もっと働いてお金を貯めたいですね。



■ 毎月の収支

【収入】	
仕送り	5万円
アルバイト	3万～4万円
合計	8万～9万円
【支出】	
食費(自炊+学食)	2万円
交際費(友人と外食など)	1万5000円
交通費(サークル活動など)	5000円
ピアノレッスン	5000円
洋服・日用品代など	5000円～1万円
書籍・学用品代	5000円
貯蓄(留学費用のため)	2万～3万円
合計	8万～9万円

(学費はICU奨学融資制度で充当し、寮費4万9900円、携帯通話料は親が負担)

■ 入学までにかかった費用

- 受験関係の費用 約11万5000円
- 初年度納付金 165万9000円
(うち授業料の一部は奨学融資制度から)
- 入寮の費用 5万4000円
- 入学準備の費用 生活用品など10万～15万円



留学生2人と帰国子女1人の4人で同じユニットで生活。共有スペースでおしゃべりしたり、食事と一緒にまったく寂しさを感じないとか。



自立学生の 最新 レポート

子どもは自分なりの工夫で成長を実感！
**学生生活で必要なお金は
学生自身で調達できる**

取材文／笠原路子 撮影／関真砂子、関大介

生活費は親がすべて負担する必要はありません

学生生活を送るには、学費のほかに課外活動費や交際費、自宅外通学は下宿代などもかかります。これらを全部親が負担すると大変な額になりますが、実際はすべて親がかりという学生は少なくなっています。上に紹介した3人のように自分にあつたアルバイトをみつけて稼ぎ、上手にやりくりしている学生も多いのです。

一人暮らしをさせるのは経済的に難しいと考えている家庭なら、負担の少ない方法を探してみましよう。最近では共同生活のよさが見直され、学生寮を新たに設ける大学が増加し、友人と共同で部屋を借りるシェアハウスの人気も高まっています。こうした暮らし方は、子どもの自主性や社会性を身につけるにも有効。進学前には、生活費の出し方も子どもと話し合ってみてはいかがでしょうか。



シェアハウス住まい

家賃と光熱費を住人で頭割り。 生活費はウェブサイトのアルバイトで

早稲田大学 商学部4年生 T・Jさん

最初は一人暮らしでしたが、親の負担を減らしたいと思い家賃を節約するため、友人と2人で住める部屋を探しました。だんだん人数が増えて、今は7人で生活しています。家賃と水道光熱費の月約12万円を頭割りして、1人分は約2万円と安く済んでいます。他のルールは月に1回みんなで掃除することぐらい。食費はそれぞれの自己負担ですが、3人以上集まるときはお金を出し合って自炊することもあります。家具や家電はミクシィで譲ってもらっています。シェアハウスのよさは、ツイッターをやらなくてもつぶやく相手がいること。大家さんが寛大で、その点でも恵まれています。



アルバイトについて

シェアハウスにして住み始めてからは、親からの仕送りはなし。アルバイト収入のみで生活しています。ウェブサイトの制作や運営で月平均8万円稼いでいて、将来は起業も視野に入れています。

毎月の収支

【収入】	アルバイト	8万円
合計		8万円
【支出】	家賃・水道光熱費	2万円
	食費	3万円
	携帯通信料	1万円
	交際費・交通費	2万円
合計		8万円

(学費は親が負担)

入学までにかかった費用

- 受験関係の費用 7万円
- 初年度納付金 110万円
- 入学準備の費用 スーツ代3万円
- アパートの初期費用 20万円



広めの1LDKに7人暮らし。パントリーがあればプライベートの世界に入れるので、共同生活にも不満はない。

自宅通学

親から小遣いはもらわず、学業と両立しやすい バイトで大学生活を満喫しています！

千葉大学 法経学部2年生 Y・Sさん

大学に入ったら、小遣いは自分で稼ぐものと思っていたので、親に言われたわけではなく、進学が決まってすぐアルバイトを始めました。週3～4日ハンバーガーショップで働いています。使い道は、外食代や外部のサークルに参加するための交通費が主ですね。ただし、昼食は自分でお弁当を作り、飲みものも家から持参して、節約しています。これまで2回ほど海外にボランティア旅行に行きましたが、この費用もアルバイト代を貯めて捻出しました。将来は国際協力の仕事に就きたいと考えており、大学の勉強は自分の興味にドンピシャなので、すごく充実しています。



アルバイトについて

初めは塾の講師もしていましたが、掛け持ちがきつくなり、今はハンバーガーショップだけ。シフトが自由に決められるので、大学の勉強との両立がしやすいところが気に入っています。

毎月の収支

【収入】	アルバイト	3万～4万円
合計		3万～4万円
【支出】	交際費	1万5000円
	交通費(サークル活動など)	1万円
	洋服・化粧品・書籍代	8000円
	貯蓄(旅行費用のため)	1万円
合計		4万3000円

(学費、教科書代、定期代、携帯代は親が負担)

入学までにかかった費用

- 受験関係の費用 約29万円(私立大の入学金含む)
- 初年度納付金 81万7800円
- 入学準備の費用 スーツ代など4万円



国際協力を学べる大学を受験。外部のNGOの活動にも参加しているため、スケジュール帳は予定でびっしり。

大学昼間部学生の アルバイト事情

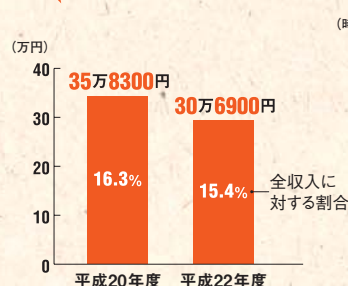
最近、家庭からの給付のみでは学生生活が送れない学生が増えています。学費の高い私立大生ほどアルバイト時間は長くなりがち。普段は1回数時間、週2～3日で、夏休みなどに集中して稼ぐという働き方が一般的。

している人の割合は？

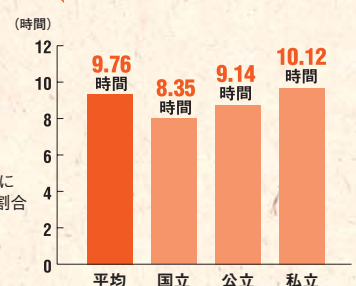
	平成20年度	平成22年度
アルバイト従事者 合計	77.6%	73.1%
家庭からの給付のみで修学可能	39.9%	32.8%
家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	37.6%	40.3%

前回より ▲ アップより ▼

収入は？(年間平均額)



1週間の生活でのアルバイト時間は？



※データはすべて日本学生支援機構「平成22年度学生生活調査」より